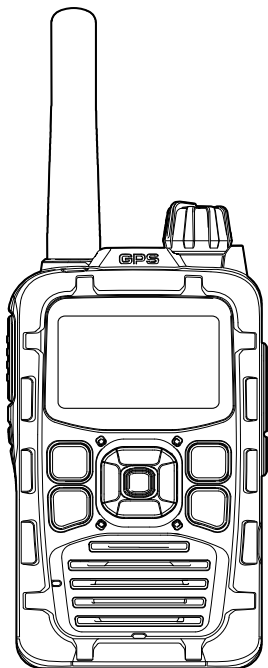


取扱説明書

携帯型IP無線機

SK-3000

この取扱説明書は、別売品のことも記載
していますので、お読みになったあとも
大切に保管してください。



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、NTTドコモの3G/LTE通信ネットワーク網を経由した日本全国が通信エリアの携帯型IP無線機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品について

- ◎ストラップ 1
- ◎取扱説明書(本書)、保証書

登録商標/著作権について

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

アイコム株式会社、アイコムは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品の概要について

- ◎株式会社NTTドコモの3G/LTE通信ネットワークとクラウドサーバーを利用することで、日本全国が通信エリアの安定した通信ができます。
- ◎IP57(防塵形と防浸形)*の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)
- ◎局番号帳メモリー機能により、接続先を簡単に表示できます。
- ◎漢字名称を選択して、各通話モード(P.12)の切り替えや、相手局の呼び出しができます。
- ◎通話メモ機能により、相手局の通話内容を録音/再生できます。
- ◎あらかじめ携帯機に登録されている状態を選択し、確定することで、自局の状態を動態管理システムで確認できます。
- ◎一斉・同報通信時の遅延、バラつきを極小化することにより、レスポンスのよい高品質通信を実現しました。
- ◎GPSモジュールとGPSアンテナが内蔵されていますので、動態管理システムを導入すれば位置情報の管理ができます。

★「IP表記について」(P.6)をご覧ください。

使用後はリサイクルへ



Li-ion

この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <http://www.jbrc.com/>

はじめに(つづき)

医用電気機器近くでの取り扱いについて

植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器や医用電気機器の近くで本製品を使用する場合は、電波によりこれらの装置・機器に影響を与えるおそれがありますので、次のことをお守りください。

◎植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されている方は、本製品を植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の装着部位から15cm以上離して携行、および使用してください。

電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

◎身動きが自由に取れない状況など、15cm以上の離隔距離が確保できないおそれがある場合、付近に植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、本製品を使用しないでください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

◎医療機関の屋内では次のことに注意してご使用ください。

- 手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視病室(CCU)には本製品を持ち込まないでください。
- 病棟内では、本製品を使用しないでください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は本製品を使用しないでください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示にしたがってください。

◎医療機関の外で、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合(自宅療養など)は、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。

電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

防塵/防水性能について

バッテリーパックを無線機本体に装着することで、IP57の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパック、スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の使用による防塵/防水性能について」(下記)に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷したとき
- 10℃～+60℃以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

バッテリーパック(SK-P01)、アンテナ(SK-A01)を無線機本体に装着することで、IP57の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

※別売品(P.96～P.97)のご使用は、防塵/防水性能をご確認の上、ご使用ください。

はじめに(つづき)

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※蛇口などから直接かけるのではなく、洗面器などにためた常温の真水で洗い流してください。

※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

【ご注意】

次の場合は、防水性能を維持できませんので、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふき、十分に乾燥させてからご使用ください。

- 無線機本体、ジャックの保護カバーが破損している場合
- 無線機を落下させたり、衝撃を与えたりした場合

はじめに(つづき)

電波法についてのご注意

- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

2.4GHz現品表示記号の意味について

「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」 : FHSS方式

「1」 : 想定干渉距離が10m以下

「----」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可



はじめに(つづき)

電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯のBluetooth[®]で通信するときは、次のことさらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。

◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記のサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談ください。

◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、下記へお問い合わせください。

販売元お問い合わせ先

スマートウェーブ・テレコミュニケーションズ株式会社

サポートセンター

TEL 045-718-6750

取り扱い上のご注意

- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎サービスエリア内でも電波の届かない場所(トンネル・地下など)では通話できません。また、電波状態の悪い場所では通話できないこともあります。なお、通話中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通話が途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに(つづき)

本製品の比吸収率(SAR)について

本製品は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。

この技術基準は、携帯型端末などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)について、これが2W/kg*の許容値を超えないこととしています。

この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分な安全率を含んでおり、世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が示した国際的なガイドラインと同じ値になっています。

本製品の値は1.49W/kg(10g)です。

この値は、国が定めた方法にしたがい、携帯型端末の送信電力を最大にして測定された最大の値です。

個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

また、本製品は、基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>

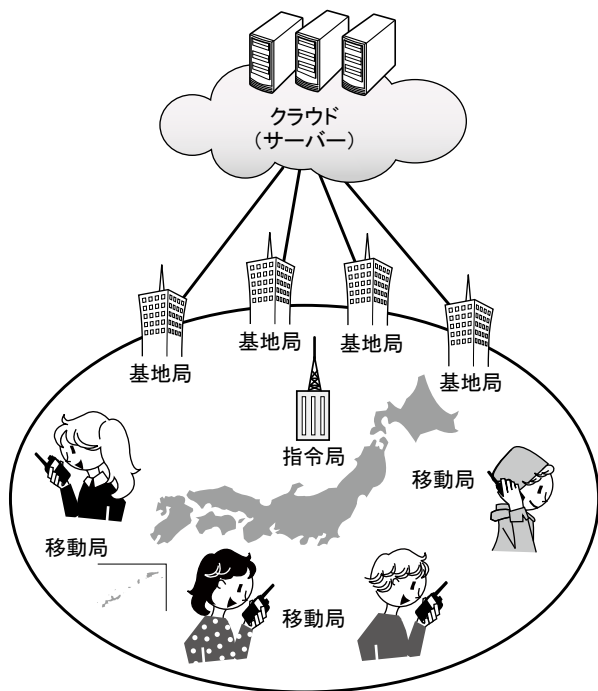
社団法人電波産業会のホームページ

<http://www.arib-emf.org/index.html>

★技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。

IP無線システムについて

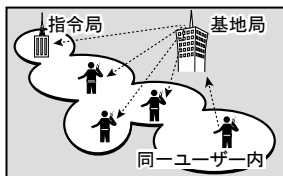
IP無線システムは、携帯電話通信網を利用して広域かつ高品質の音声通話データ転送を実現するシステムです。



はじめに(つづき)

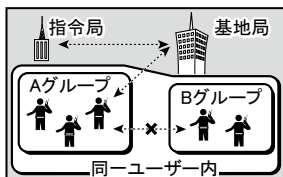
通話モード

IP無線システムは、6つの通話モードから1つを指定して通話ができます。



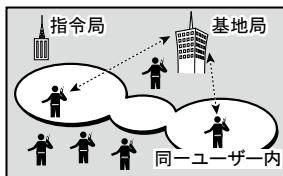
(1)全グループ斉通話

同一ユーザー内で、通話中の無線機を強制的に終話させて、すべての無線機と通話ができます。



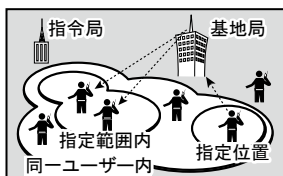
(2)全グループ通話

同一ユーザー内で、通話中以外のすべての無線機と通話ができます。



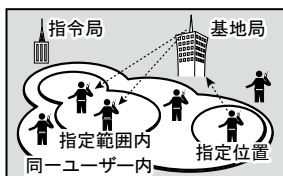
(3)グループ通話

同一ユーザー内で、無線機を複数のグループ(例:A、B)に分けているとき、特定のグループの無線機とだけ通話ができます。



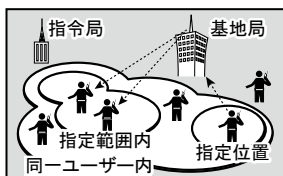
(4)個別通話

同一ユーザー内で、無線機ごとに割り当てられたユーザ名(番号)の特定の無線機とだけ通話ができます。



(5)個別優先通話

同一ユーザー内で、通話中の無線機を強制的に終話させて、その無線機と優先して通話ができます。



(6)隣接通信通話

同一ユーザー内で、GPS位置情報、またはあらかじめ無線機に設定されている位置情報を元に、指定位置から指定範囲内にある無線機と通話ができます。

はじめに	2
安全上のご注意	16
ご使用前の準備	27
■ アンテナ/ストラップの取り付けかた	27
■ ベルトクリップの取り付けかた	27
■ バッテリーパックの取り付けかた	28
■ 充電のしかた(SK-P02使用時)	29
■ 充電時間と運用時間の目安	31
■ バッテリーパックの特性と寿命について	31
■ バッテリーパックの膨らみについて	32
■ micro SIMカードを取り付ける	33
■ 電源の入れかたと音量調整のしかた	34
■ 通話の前に確認すること	35
■ 電池の残量表示について	36
■ 電池の残量警告音について	36
■ キーロック機能について	37
各部の名称とはたらき	38
■ 前面部/側面部	38
■ 表示部	41
通話する(ワンタッチ発信)	44
通話する(局番号帳発信)	45
通話する(番号入力発信)	49
■ [回線表示]ランプが赤色に点灯したら	52
通話する(着信)	53
■ 通話中の全グループ一斉受信について	54
■ 通話中の個別優先受信について	54
■ 通話の終了について	55
発信履歴から発信する	56
着信履歴から発信する	57
セレコール	58
メールを送信する	61

もくじ(つづき)

受信メール履歴	65
送信メール履歴	67
伝言メモを送信する	69
伝言メモを再生する	71
通話メモ録音の設定と解除(待ち受け中)	73
■ 通話メモ録音を設定する(待ち受け中)	73
■ 通話メモ録音設定を解除する(待ち受け中)	74
通話メモの録音と停止(通話中)	75
■ 通話メモを録音する(通話中)	75
■ 通話メモ録音を停止する(通話中)	76
通話メモを再生する	77
緊急通報	79
ユーザを切り替える	80
自局情報を確認する	82
コントラストを調整する	84
ワンタッチ発信相手局を切り替える	85
状態を設定する	87
バイブレーションをONにする	89
Bluetooth [®] を設定する	91
警告機能について	94
そのほかの機能について	95
■ GPS位置情報	95
■ 無通信時間制限	95
■ 緊急モニター	95
別売品とその使いかた	96
■ 別売品についてのご注意	96
■ 別売品について	96
■ 乾電池ケース(SK-P06)について	98
■ 6連急速充電器(SK-P04)で充電するには	100

■ スピーカーマイク(SK-M01)/ネクタイピンマイク (SK-M02)/防水スピーカーマイク(SK-M04)の 接続について	102
■ ネクタイピンマイク(SK-M02)の使いかた	103
■ ソフトケース(SK-T02)について	104
■ シガライターケーブル(SK-P07)で充電するには ..	106
ケタ数/件数一覧	107
ファームアップについて	108
メッセージ一覧	109
保守	112
■ 日常の保守	112
■ 定期保守	112
故障と思われる前に	113
用語・機能説明一覧	115
仕様	118
■ SK-3000	118
保証とアフターサービス	119
■ 保証書(別添付)	119
■ 保証期間中の修理	119
■ 保証期間後の修理	119
■ 弊社製品のお問い合わせ先について	119

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の「△危険」、「△警告」、「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

△危険

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

△警告

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

△注意

これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意(つづき)

■ 共通

⚠ 警告

- ◎ 航空機内や病院など、使用を禁止されている区域では電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に悪影響を与える原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

- ◎ 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。

本製品からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

- ◎ 分解、改造しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ◎ 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。

感電、けがの原因になります。

安全上のご注意(つづき)

■ 共通

⚠ 注意

- ◎ 直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ SK-3000本体について

⚠ 危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
火災、爆発の原因になります。

⚠ 警告

- ◎ 指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ アンテナやストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

安全上のご注意(つづき)

⚠注意

- ◎ アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎ 針金などの細い棒で、マイクやスピーカーの穴に触れないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 付属品、および指定の別売品以外は使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ -10°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

■ バッテリーパック(SK-PO1)について(別売品)

⚠危険

- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。
バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

安全上のご注意(つづき)

■ バッテリーパック(SK-P01)について(別売品)

⚠危険(つづき)

◎ 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎ コンクリートなどのかたい床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があります、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- バッテリーパックの端子がサビるなどした場合は使用しないでください。
- バッテリーパックの端子を加工しないでください。
- 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

安全上のご注意(つづき)

⚠警告

- ◎ 電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ 指定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ バッテリーパックは、ぬれた状態で無線機や充電器に装着しないでください。
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

バッテリーパックをご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。


安全上のご注意(つづき)

■ バッテリーパック(SK-P01)について(別売品)

⚠注意

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。

長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、 (残量あり)の状態を表示するまで使用して、無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。

約1ヵ月 : -20℃～+50℃

約3ヵ月 : -20℃～+35℃

約1年 : -20℃～+20℃

- -10℃～+60℃以外の環境では使用しないでください。
- 寒い屋外や冷えた状態で充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

■ 充電器(SK-P02、SK-P04)について(別売品)

⚠危険

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器には、弊社指定以外のACアダプタを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
SK-P01 (バッテリーパック) 専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

安全上のご注意(つづき)

⚠警告

◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

⚠注意

◎ 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
SK-P02(急速充電器) : 0℃～40℃
SK-P04(6連急速充電器) : 10℃～40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

安全上のご注意(つづき)

■ 乾電池ケース(SK-P06)について(別売品)

⚠危険

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- SK-P06(乾電池ケース)は、アルカリ乾電池専用の乾電池ケースです。

アルカリ乾電池以外の電池を入れないでください。

- 充電しないでください。
- ハンダ付けしないでください。
- 乾電池ケースの電池端子間をショートさせないでください。
- 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものと乾電池ケースをいっしょに持ち運んだり、放置したりしないでください。
- 火やストーブのそば、炎天下など、高温になる場所での使用、または放置をしないでください。
- 長時間使用しない場合は、液もれのおそれがありますので、アルカリ乾電池を取りはずしてください。
また、電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。
失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 被覆が傷ついたり、はがれたりしたアルカリ乾電池を使用しないでください。

安全上のご注意(つづき)

⚠警告

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

- テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
アルカリ乾電池から、ガスが発生することがあります。
- 水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。
また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。

■ シガライターケーブル(SK-P07)について(別売品)

⚠危険

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
SK-P01(バッテリーパック)専用のシガライターケーブルです。
- 乾電池ケースを使用したまま、シガライターケーブルを接続しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

安全上のご注意(つづき)

■ シガライターケーブル(SK-P07)について(別売品)

⚠警告

◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- シガライターケーブルを、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手でシガライターケーブルに絶対に触れないでください。
- シガライターケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- シガライターケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- シガライターケーブルに傷がある、またはシガライターソケットの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

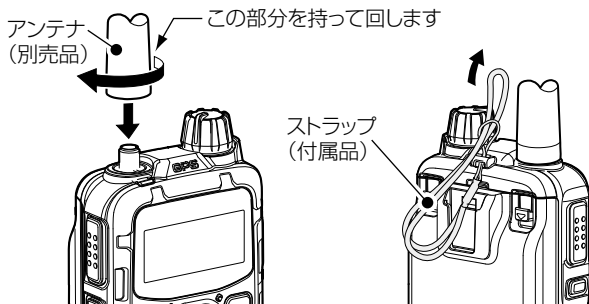
⚠注意

◎ 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 0℃～40℃以外の環境で充電しないでください。
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- シガライターケーブルを抜き差しするときは、ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、シガライターソケットからシガライターケーブルを抜いてください。

ご使用前の準備

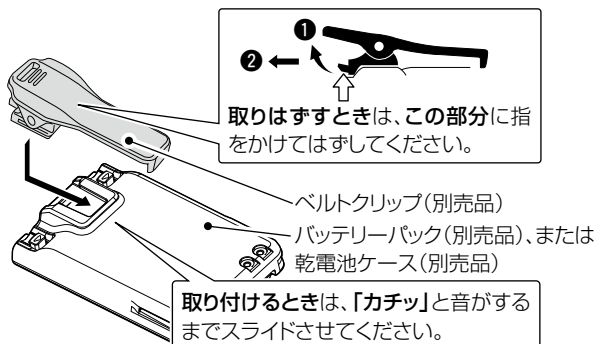
■ アンテナ/ストラップの取り付けかた



【ご注意】

技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていますので、別売品のアンテナ(SK-A01)以外は使用できません。

■ ベルトクリップの取り付けかた



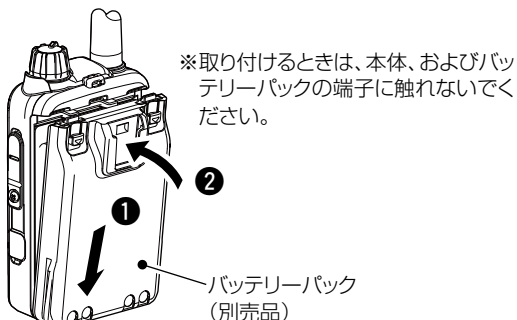
※バッテリーパック、または乾電池ケースを無線機本体から取りはずした状態で、ベルトクリップを着脱してください。

ご使用前の準備(つづき)

■ バッテリーパックの取り付けかた

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

※充電方法については、本書P.29～P.30をご覧ください。



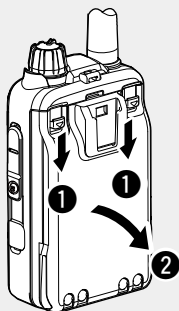
上図の手順(①～②)で、取り付けてください。

△注意

しばらく使用しないときは、バッテリーパックを無線機本体から必ず取りはずしてください。

本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になることがあります。

※本製品の電源を切ってから、右図の手順(①～②)で、バッテリーパックを取りはずしてください。



ご使用前の準備(つづき)

■ 充電のしかた(SK-P02使用時)

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。

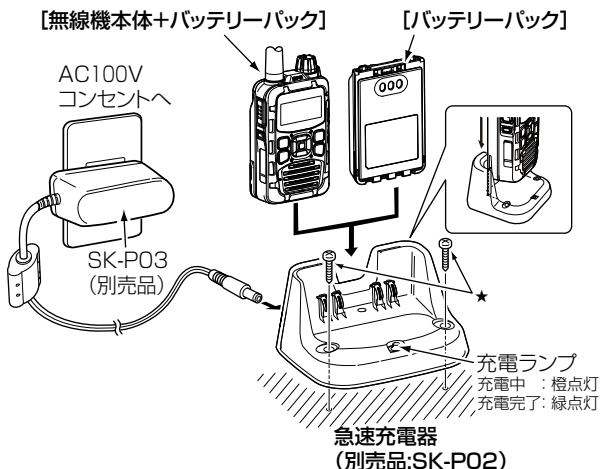
- ◎ 充電中は、本製品の電源を切ることをおすすめします。
電源が入ったまま充電すると、充電に時間がかかります。
- ◎ バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。
- ◎ 充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。
※橙色で点滅する場合は、「故障と思われる前に」(P.114)をご覧ください。
- ◎ 充電が完了したあと、バッテリーパックの電圧が低下すると自動的に再充電を開始します。
※0℃～40℃以外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。
※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプタを抜いてください。
- ◎ 本製品を長時間ご使用にならない場合は、充電器から取りはずしてください。

△危険

- ◎ 充電するときは、必ず「別売品について」(P.96)に記載の充電器をご使用ください。
- ◎ SK-P01以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎ 「安全上のご注意」(P.16～P.26)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

ご使用前の準備(つづき)

■ 充電のしかた(SK-P02使用時)



★固定されるときは、市販のタッピングネジ(2本:3.5×30mm)をご用意ください。

【ご参考】

急速充電器(SK-P02)で充電する際、ソフトケース(SK-T02)を装着した状態で充電できます。

ソフトケースを装着して充電する方法については、「別売品とその使いかた」(P.105)をご覧ください。

ご使用前の準備(つづき)

■ 充電時間と運用時間の目安

ご使用になる運用条件によって、運用時間が異なります。

※圏外やローミングを繰り返す環境では、運用時間は短くなります。

名称 定格項目	バッテリーパック(SK-P01)
運用時間	約15.0時間
	〈条件〉送信1、受信1、待ち受け受信8の割合で 繰り返し運用
充電時間	約3.5時間 (SK-P02を使用時)
	約4.0時間 (SK-P04を使用時)

※バッテリーパックの残量がない状態で充電した場合の時間です。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパックの特性と寿命について

◎ バッテリーパックは、消耗品です。

充電できる回数は、300回～500回が目安です。

◎ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。

◎ 劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。

◎ 充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。

無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

ご使用前の準備(つづき)

■ バッテリーパックの膨らみについて

下記のような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

- ◎ ひんぱんに充電している
- ◎ 満充電直後でも再充電している
- ◎ 高温な場所で使用・保管している
- ◎ 本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

【乾電池ケースをご使用の場合】


市販のアルカリ乾電池を乾電池ケース(SK-P06)に入れて使用した場合の運用時間の目安です。

※乾電池ケースの使用方法や注意事項については、98～99ページをご覧ください。

名称 定格項目	電池ケース(SK-P06)
運用時間	約5.0時間
	〈条件〉送信1、受信1、待ち受け受信8の割合で 繰り返し運用

※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、運用時間が大きく異なることがあります。

また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。
※乾電池ケース(SK-P06)を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池の残量表示は「」となります。

ご使用前の準備(つづき)

■ micro SIMカードを取り付ける

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② 側面のmicro SIMカードスロットのカバーを開きます。
- ③ micro SIMカードの端子を前面にして、角がカットされている方からmicro SIMカードスロットに挿入し、「カチッ」とロックされるまで押し込んでください。

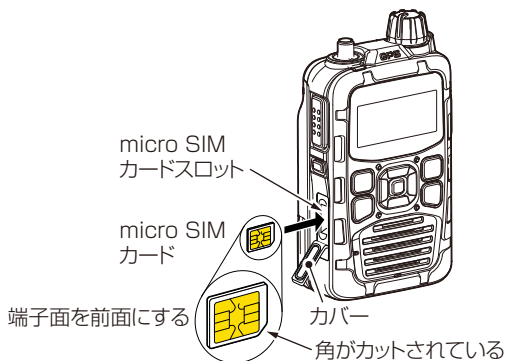
※micro SIMカードの端子に、直接指で触れないでください。

※取りはずすときは、「カチッ」とロックが解除されるまで押し込んでから、micro SIMカードを抜き取ってください。

データの書き込み中、読み込み中にmicro SIMカードを取りはずさないでください。

micro SIMカードのデータ破損や消去の原因になります。

- ④ 側面のmicro SIMカードスロットのカバーを正しく閉じてください。



【ご注意】

micro SIMカードを逆向きに挿入したり、無理やり挿入したりしないでください。

カードやスロットが破損する原因になります。

ご使用前の準備(つづき)

■ 電源の入れかたと音量調整のしかた

1 電源の入れかた

【電源/音量】ツマミを時計方向に回して電源を入れます。

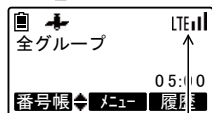
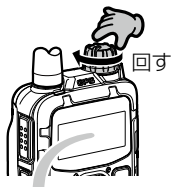
- 「カチッ」と音がして、表示部に待ち受け画面が表示されます。

※表示部とスイッチ(前面部)の照明が約5秒点灯します。

※電源を切るときは、【電源/音量】ツマミを反時計方向に「カチッ」と鳴るまで回します。

※電源を切ったのち、再度、電源を入れる場合は、3秒～4秒程度待ってから電源を入れてください。

※防塵/防水対応により、簡単に回らない構造になっています。



【ご参考】

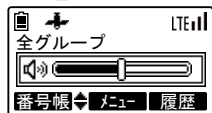
3G回線接続時は、「3G」が表示されます。

2 音量を調整する

【電源/音量】ツマミを回します。

※【電源/音量】ツマミを時計方向に回し切ると、音声のひずみや、音割れの原因となります。

適切な音量に調整してください。



【ご注意】

【電源/音量】ツマミを反時計方向に回し切ると、電源が切れます。

また、【電源/音量】ツマミに連動してキー操作や着信時の音量も変化します。

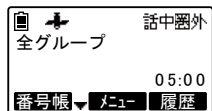
ご使用前の準備(つづき)

■ 通話の前に確認すること

次の内容を確認してから通話してください

◆「話中圏外」が表示されていませんか

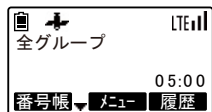
【回線表示】ランプが赤色に点灯し、「話中圏外」と表示されているときは、携帯電話通信サービスの圏外です。電波が届き、「3G」、または「LTE」マークが点灯する地点まで場所を移動すると、通話できます。



◆電波の強い地域ですか

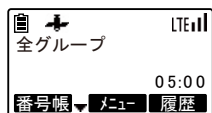
表示部で電波の強さを確認してください。

アンテナマーク2本以上が目安です。携帯電話通信サービスエリア内でもビル陰など電波の弱い地域があります。



◆通話/接続先相手番号は正しいですか

通話したい相手局(例:全グループ)を設定してから発信してください。



ご使用前の準備(つづき)


■ 電池の残量表示について

バッテリーパックの残量に応じて、表示が変化します。


【電池残量の目安】

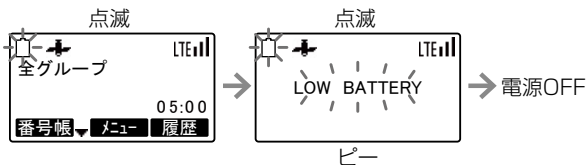



※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックを充電してください。
※乾電池ケース(SK-P06)を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関係なく、残量表示は「」となります。

■ 電池の残量警告音について

バッテリーパック使用時、電池の残量表示が「」したら、本製品の電源を切り、すぐに充電してください。



※残量表示が「」の状態で使用をつづけると、「LOW BATTERY」が表示され、「ピー」と警告音が1秒間鳴ったあと、電源が自動的に切れます。

※「LOW BATTERY」で電源が自動的に切れた場合、急速充電器(SK-P02)、または6連急速充電器(SK-P04)を使用しての充電は、本製品の【電源/音量】ツマミを反時計方向に「カチッ」と鳴るまで回して電源を切ってから、充電器に差し込んでください。

ご使用前の準備(つづき)

■ キーロック機能について

不用意に本製品のキーやスイッチに触れても、設定や表示が変わらないようにします。

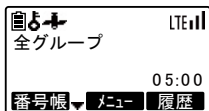
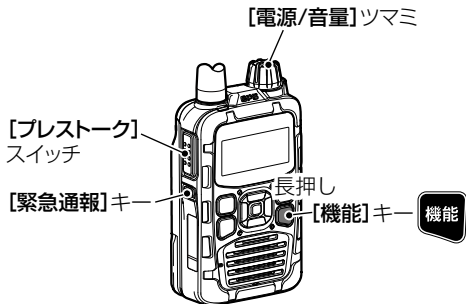
【操作のしかた】

待ち受け画面で、**【機能】**キーを長く(約1秒)押します。

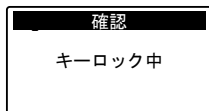
- 「ピッピッピッ」と鳴って、「**も**」が点灯します。

※同じ操作をすると、ロックを解除できます。

※**【プレストーク】**スイッチ、**【電源/音量】**ツマミ、**【緊急通報】**キーは、キーロック中でも使用できます。



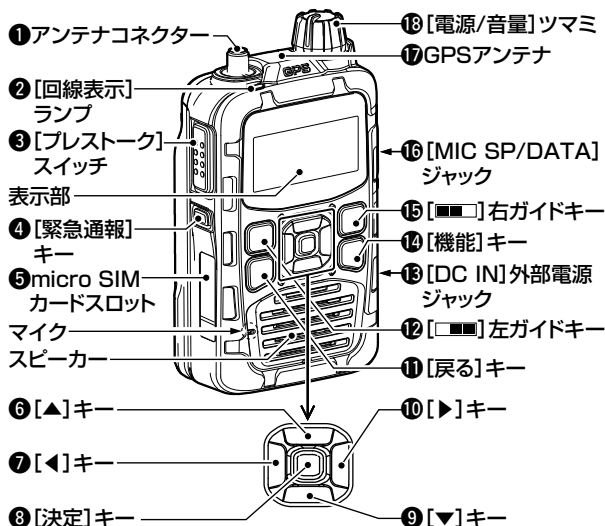
(待ち受け画面
例:全グループ通話)



(キーロック動作時)

各部の名称とはたらき

■ 前面部/側面部

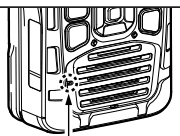


[ご注意]

マイクは右図の場所にありますので、お話されるときはマイクに向かってお話しください。

また、マイクと口元を約5cmはなし、ふだん会話する大きさの声で通話してください。

マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって通話相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



マイク



各部の名称とはたらき(つづき)

①アンテナコネクター

別売品のアンテナ(SK-A01)を接続するSMAコネクターです。

②[回線表示]ランプ

回線状態が表示されます。

消灯 : 待受状態/通話状態/
ファームエアダウン
ロード中

緑点灯: 送信状態

赤点灯: 話中状態/圏外時/起動
中/接続中

赤点滅: エラー状態/運用パラ
メータ、およびユーザ
名(番号)変更等による
設定取得中

③[プレストーク]スイッチ

押すと送信状態、はなすと受信状態になります。

④[緊急通報]キー

◎長く押しつづけると、緊急通報信号を発呼します。

◎緊急通報中に長く押しつづけると、緊急通報を解除します。

⑤micro SIMカードスロット

3G/LTE用micro SIMカードの挿入口です。


⑥[▲]キー

上方向へ項目を移動します。

⑦[◀]キー

左方向へ項目を移動します。

⑧[決定]キー

表示されている画面で操作したとき、動作する機能が表示部の  (下側中央) に表示されます。

⑨[▼]キー

下方向へ項目を移動します。

⑩[▶]キー

右方向へ項目を移動します。

⑪戻るキー



短押し

1つ前の画面に戻ります。

長押し


待ち受け画面に戻ります。

待ち受け画面で長押し

初期設定の宛先(P.41)
が表示された待ち受け
画面に戻ります。

⑫左ガイドキー



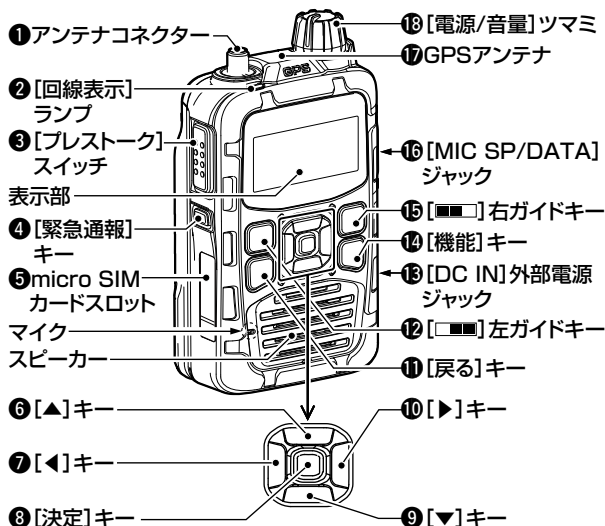
表示されている画面で操作したとき、動作する機能が表示部の  (左下) に表示されます。

⑬[DC IN]外部電源ジャック

別売品のシガライターケーブル(SK-P07)を接続するジャックです。

各部の名称とはたらき(つづき)

■ 前面部/側面部(つづき)



⑭ 機能キー



短押し★

あらかじめ登録されたメニューへ移行します。

長押し

キーロック機能をON/OFFします。(P.37)

⑮ 右ガイドキー



表示されている画面で操作したとき、動作する機能が表示部の■◻◻(右下)に表示されます。

⑯ [MIC SP/DATA] ジャック
別売品のスピーカーマイク(SK-M01)、ネックタイピンマイク(SK-M02)を接続します。

★お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。
設定される機能により、動作は異なります。

各部の名称とはたらき(つづき)

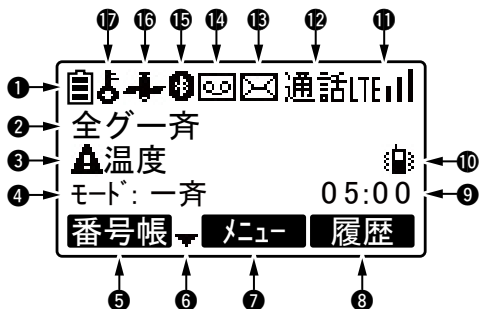
⑪GPSアンテナ

内蔵されているGPS(Global Positioning System)を受信するレシーバーのアンテナです。

⑫[電源/音量]ツマミ

電源を入れたり、切ったりするときに、および音量を調整するときに使用します。

■ 表示部



①(電池残量)表示

電池残量が4段階で表示されます。(P.36)

②宛先表示

ワンタッチ発信相手局の名称(例: 全グー斉)が表示されます。

③音量調整表示/温度警告表示 /ファームエアダウンロード表示

[電源/音量]ツマミを回すと、音量調整が表示されます。

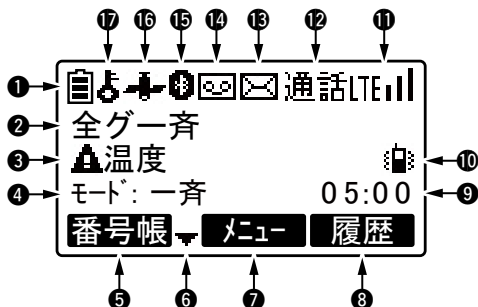
(P.34)

本製品の温度が規定温度を超えたとき、上図が表示されます。(P.94)

ファームエアダウンロード中は、「FIRM DL」と表示され、完了すると、「FIRM OK」と表示されます。(P.108)

各部の名称とはたらき(つづき)

■ 表示部(つづき)



④通話モード表示

送信、および着信画面で表示される選択呼出種別(例:一斉)です。

一斉:全グループ一斉通話モード
全グ:全グループ通話モード
グル:グループ通話モード
個別:個別通話モード
優先:個別優先通話モード
隣接:隣接通信通話モード

⑤[左ガイド]キーの機能表示

[左ガイド]キー(例:番号帳)で動作する機能が表示されます。

⑥[▲]/[▼]表示

[▲]/[▼]キーの操作で、画面を切り替えできるとき、表示されます。

⑦[決定]キーの機能表示

[決定]キー(例:メニュー)で動作する機能が表示されます。

⑧[右ガイド]キーの機能表示

[右ガイド]キー(例:履歴)で動作する機能が表示されます。

⑨通話時限表示

通話残時間が1秒刻みで表示(例:05:00)されます。

⑩バイブレーション機能表示


バイブレーション機能(P.89)が設定されているとき、表示されます。


各部の名称とはたらき(つづき)


⑩受信電界強度表示


NTTドコモ回線への接続状態と信号強度が表示されます。


(LTE回線の場合)

 : 接続中で、信号強度が「強」のとき

 : 接続中で、信号強度が「中」のとき

 : 接続中で、信号強度が「弱」のとき

 : 接続中で、信号強度が「微弱」のとき

 : 回線に接続できないとき

※3G回線接続の場合は、「LTE」表示が「3G」に変わります。

⑪無線回線状態表示

回線状態が表示されます。


通話 : 通話が確立されたとき


話中 : 通話が確立して、音声やデータ信号を受信中の状態

送信 : 通話が確立して、音声を送信中の状態

⑫メール表示

受信メールの状態が表示されます。

 : 未読メールがあるとき


 : メールボックスがいっぱいで、新着メールが受信できないとき


⑬通話メモ表示

通話メモが設定されているとき、表示されます。

⑭Bluetooth®機能表示

Bluetooth®機能(P.91)が設定されているとき、表示されます。

 : Bluetooth®対応のイヤホンマイクやデータ端末と未接続のとき

 : Bluetooth®対応のイヤホンマイクやデータ端末と接続中のとき

⑮GPS機能表示

GPS通知設定の状態が表示されます。

未測位のとき : 点滅

測位完了のとき : 点灯

⑯キーロック機能表示

キーロック機能(P.37)が設定されているとき、表示されます。

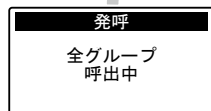
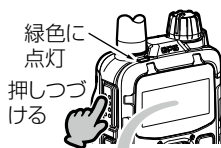
通話する(ワンタッチ発信)

待ち受け中、ワンタッチ発信相手局が表示されます。
[プレストーク]スイッチを押すだけで発信できます。

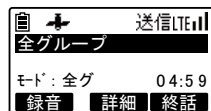
1 [プレストーク]スイッチを押しつづける

[回線表示] ランプが緑色に点灯します。

(例: ワンタッチ発信相手局が、「全グループ」の場合)



↓ 約1秒後




【ご参考】

ワンタッチ発信相手局は、局番号帳から選択できます。
手順については、「ワンタッチ発信相手局を切り替える」(P.85)をご覧ください。

通話する(局番号帳発信)

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド]  キー(番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。


局番号帳	◀数▶
0 1号車	
0 2号車	
0 3号車	
あ行	選択 改頁

2 接続する相手局の名称を選択する

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]キーを押すと、選択局が替わります。

(選択例:全グー斉)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

※[右ガイド]  キー(改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。

局番号帳	◀い▶
全グー斉	
全グループ	
番号入力	
さ行	選択 改頁

3 [決定]キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わります。

- ※「発呼」が選択されていない場合は、[▲]/[▼]キーを押して、「発呼」を選択します。

全グー斉	一斉
発呼	
詳細確認	
待受選択	
決定	

(次ページにつづく)

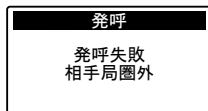
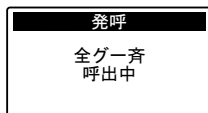
通話する(局番号帳発信)つづき

4 [決定]キー(決定)を押す

発呼され、右図の表示に切り替わります。

※接続が成功すると、「ピッピー」と通話指示音が鳴ります。

※接続に失敗すると、右図の表示(例)に切り替わると同時に、「プッププ」と鳴ります。

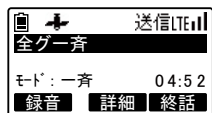


通話する(局番号帳発信)つづき

5 通話する

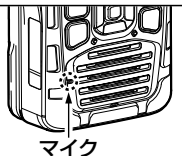
【こちらからの音声を送るには】
【プレストーク】スイッチを押し
ながら通話する

※【回線表示】ランプが緑色に点灯し、
「ピッ」と送信権獲得音が鳴ってから
お話ください。
お話しできない場合は、「プッププッ」と鳴ります。



【ご注意】

マイクは右図の場所にありますので、お話
されるときはマイクに向かってお話し
ください。



また、マイクと口元を約5cmはなし、ふ
だん会話する大ききの声で通話してくだ
さい。

マイクに口を近づけすぎたり、大きな声
を出したりすると、かえって通話相手に聞こ
えにくくなりますのでご注意ください。



【相手から音声を受けるときは】
【プレストーク】スイッチをはなす

※【回線表示】ランプが赤色に点灯し、相手局の名称、または個
別番号が表示され、音声聞こえます。

(次ページにつづく)

通話する(局番号帳発信)つづき

6 通話モードとユーザ名(番号)を確認するには

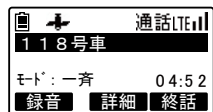
通話モードとユーザ名(番号)を下記の操作で確認できます。

なお、個別通話モード以外の通話のとき、相手局からの受信により相手局の名称、または個別番号が表示された場合はユーザ名(番号)を確認できます。

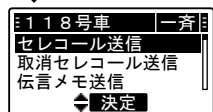
1. 手順5(前ページ)の通話後、待ち受け画面に切り替わる(終話)前に、**[決定]**キー(詳細)を押します。
●詳細確認が表示されます。
2. **[▼]**キーを押し、「詳細確認」を選択します。
3. **[決定]**キー(決定)を押します。
●通話モードが表示されます。
4. **[▼]**キーを押します。
●ユーザ名(番号)が表示されます。

[待ち受け画面で確認するには]

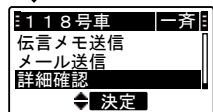
[▼]キーを押すと、発呼する通話モードが表示され、再度**[▼]**キーを押すと、ユーザ名(番号)が表示されます。



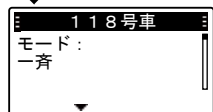
↓ **[決定]** キーを押す



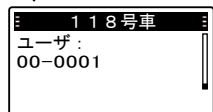
↓ **[▼]** キーを押す



↓ **[決定]** キーを押す




↓ **[▼]** キーを押す



通話する(番号入力発信)

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド]  キー(番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。

局番号帳	◀数▶
0 1号車	
0 2号車	
0 3号車	
あ行	選択 改頁

2 「番号入力」を選択する

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]キーを押し、「番号入力」を選択します。

局番号帳	◀番▶
全グー齊	
全グループ	
番号入力	
数字	選択 改頁

3 [決定]キー(選択)を押す

番号入力画面が表示されます。

番号入力	個別
◀ 0 0 0 0 ▶	
◀ 選択 モード ▶	

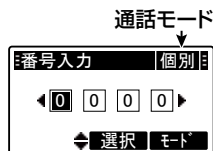
(次ページにつづく)

通話する(番号入力発信)つづき

4 通話モードを選択する

【右ガイド】キー(モード)を押すと、通話モードが替わります。

番号入力ができる通話モードは「個別」(個別通話モード)、「グ」(グループ通話モード)、「優先」(個別優先通話モード)です。
(選択例:個別)



※押すごとに「グ」(グループ通話モード)→「全グ」(全グループ通話モード)→「一斉」(全グループ一斉通話モード)→「優先」(個別優先通話モード)→「個別」(個別通話モード)→「グ」と切り替わります。

5 個別番号/グループ番号を入力する

【▲】/【▼】キーを押して、数字(0～9)を入力します。

【◀】/【▶】キーを押すと、入力する場所が替わります。

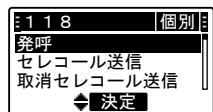
(個別番号入力例:0118)



6 【決定】キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わります。

※「発呼」が選択されていない場合は、
【▲】/【▼】キーを押して、「発呼」を選択します。



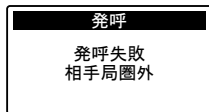
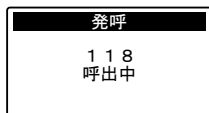
通話する(番号入力発信)つづき

7 [決定]キー(決定)を押す

発呼され、右図の表示に切り替わります。

※接続が成功すると、「ピッピー」と通話指示音が鳴ります。

※接続に失敗すると、右図の表示(例)に切り替わると同時に、「プッププ」と鳴ります。



(次ページにつづく)

通話する(番号入力発信)つづき

■【回線表示】ランプが赤色に点灯したら

圏外、または発信禁止状態です。

通話中などの場合は、失敗理由が表示されます。

また、個別通話モードの発信で、相手局が通話中の場合は、「プップ」^①と音が鳴り、「発呼失敗 相手局話中」などと表示されます。

8

通話する

【こちらからの音声を送るには】

【プレストーク】スイッチを押し
ながら通話する

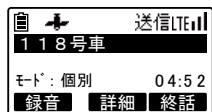
※【回線表示】ランプが緑色に点灯し、
「ピッ」と送信権獲得音が鳴ってから
お話しください。

お話しできない場合は、「プップッ」^①と鳴ります。

【相手から音声を受けるときは】

【プレストーク】スイッチをはなす

※【回線表示】ランプが赤色に点灯し、相手局の名称、または個別番号が表示され、音声聞こえます。



【ご参考】

- 全グループ斉通話モード、全グループ通話モードの場合は、手順4(P.50)で、**【決定】**キー(選択)を押すと、発信画面になります。
- 手順6(P.50)で、**【プレストーク】**スイッチを押しても発呼できません。
- 局番号帳画面で個別番号、全グループ斉、および全グループを選択して**【プレストーク】**スイッチを押すと、発呼できます。
- 全グループ斉通話(P.45)、および個別優先通話(P.50)をするには、あらかじめ販売店で保守設定が必要です。

通話する(着信)

通話を受けると、通話を受けたときの通話モード、相手局の名称、または番号が表示され、下表の各種着信音で通知します。

また、バイブレーションをONに設定(P.89)している場合は、振動でも確認できます。

通話モード	着信音	バイブレーションをON
全グループ斉通話	ピーポーピーポー	振動する
全グループ通話	なし	振動しない
グループ通話	なし	振動しない
個別通話	ピッポー	振動する
個別優先通話	ピッポー	振動する
隣接通信通話	なし	振動しない

※各種着信音は販売店の保守設定により異なります。

◆全グループ通話モード着信時

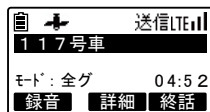
1 通話する

【こちらからの音声を送るには】
[プレストーク]スイッチを押し
ながら通話する

※[回線表示]ランプが緑色に点灯し、
「ピッ」と送信権獲得音が鳴ってから
お話しください。

【相手から音声を受けるときは】
[プレストーク]スイッチをはなす

※[回線表示]ランプが赤色に点灯し、相手局の名称、または個別番号が表示され、音声が届きます。



(次ページにつづく)

通話する(着信)つづき

■ 通話中の全グループ斉受信について

通話の途中で全グループ斉通話の呼び出しを受信すると、通話は強制終了(切断)となり、全グループ斉通話となります。この場合は、全グループ斉通話となるまで予約状態となります。

■ 通話中の個別優先受信について

通話の途中で個別優先通話の呼び出しを受けると、通話は強制終了(切断)となり、個別優先通話となります。

この場合、個別通話の相手局に対しては、通話切断理由が表示されます。

確認

優先接続の着信により
切断しました

通話する(着信)つづき

■ 通話の終了について

終話について

通話制限時間が経過すると終話となります。

通話制限時間の10秒前に「ピッ」と終話予告音が鳴ります。

終話のときには、「ブー」と終話音が鳴ります。

通話時は、通話制限時間内であっても、自局、および相手局が共に送信していない時間が5秒つづくとき終話となります。


残時間表示は目安です。

0秒と表示されてから終話するまで、しばらく時間がかかる場合があります。

強制終話・切断について

通話中に通話を抜ける機能です。

全グループ通話、グループ通話、隣接通信通話で通話中の場合

【プレストーク】スイッチをはなし、【右ガイド】キー（終話）を押します。

発信局は、相手局も同時に終話し、切断となります。

着信局は、自局のみ終話します。

自局のみ終話する場合は、用件が済んだことを確認の上、ご自身の責任で操作してください。

個別通話、個別優先通話で通話中の場合

操作は全グループ通話、グループ通話と同様です。

相手局も同時に終話しますので切断という扱いになります。

※全グループ一斉通話受信時中だけ、終話はできません。


【ご参考】

相手局の名称を表示するためには、あらかじめ販売店で保守設定が必要です。

発信履歴から発信する

発信した履歴を確認し、以前発信した相手局に再度発信できます。

1 発信履歴を呼び出す

[▶]/[▼]キー、または[右ガイド]  キー(履歴)を押すと、発信履歴に切り替わります。

- 最新の発信履歴(最大10件の発信相手局の名称、および通話モード)が表示されます。

発信履歴	
個別	1 1 8号車
一斉	全グー斉
個別	0 1号車
クリア	選択 切替

2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼]キーを押すと、選択局が替わります。(選択例:個別 01号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

発信履歴	
個別	1 1 8号
一斉	全グー斉
個別	0 1号車
クリア	選択 切替



3 [プレストーク]スイッチを押す

発呼され、右図が表示されます。

- ※[決定](選択)キー押して、[▲]/[▼]キーで「発呼」を選択、そして決定キーを押しても発呼します。

発呼
0 1号車 呼出中


【ご参考】

- 手順2、または手順3で[左ガイド]  キー(クリア)を押すと、登録されている発信履歴をすべて消去します。
- 手順2、または手順3で[右ガイド]  キー(切替)を押すと、画面が着信履歴に切り替わります。

着信履歴から発信する

着信した履歴を確認し、以前着信した相手局にかけなおすことができます。

1 着信履歴を呼び出す

【◀】キーを1回、または【右ガイド】キー(履歴)を2回押すと、着信履歴に切り替わります。

- 最新の着信履歴(最大10件の着信相手局の名称、および通話モード)が表示されます。

着信履歴	
個別	1 1 7号車
個別	1 1 8号車
個別	0 1号車
クリア ◀▶ 選択 切替	

2 相手局の名称を選択する

【▲】/【▼】キーを押すと、選択局が替わります。(選択例: 個別 01号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

着信履歴	
個別	1 1 7号
個別	1 1 8号車
個別	0 1号車
クリア ◀▶ 選択 切替	



3 【プレストーク】スイッチを押す

発呼され、右図が表示されます。

- ※【決定】(選択)キー押して、【▲】/【▼】キーで「発呼」を選択、そして【決定】(決定)キーを押しても発呼します。

発呼
0 1号車 呼出中


【ご参考】

- 手順2、または手順3で【左ガイド】キー(クリア)を押すと、登録されている着信履歴をすべて消去します。
- 手順2、または手順3で【右ガイド】キー(切替)を押すと、画面が発信履歴に切り替わります。

セレコール

相手局が不在の場合でも、呼び出しがあったことを相手局に音と表示で通知します。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド]  キー(番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。


局番号帳	◀数▶
0 1号車	
0 2号車	
0 3号車	
あ行	選択 改頁

2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]キーを押すと、選択局が替わります。

(選択例: 118号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

※[右ガイド]  キー(改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。

局番号帳	◀数▶
1 16号車	
1 17号車	
1 18号車	
あ行	選択 改頁

3 [決定]キー(選択)を押す

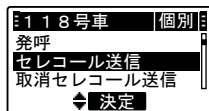
右図の表示に切り替わります。

1 18号車	個別
発呼	
セレコール送信	
取消セレコール送信	
決定	

セレコール(つづき)

4 「セレコール送信」を選択する

[▲]/[▼]キーを押し、「セレコール送信」を選択します。



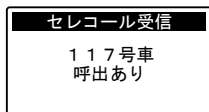
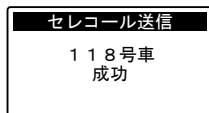
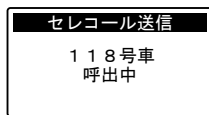
5 [決定]キー(決定)を押す

セレコールを送信して、右図が表示され、「ピッピー」と鳴ります。

セレコール送信が成功すると[回線表示]ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

※セレコールを受信した相手局では、「ピッポー」が3回鳴り(初期設定)、下図が表示されます。

また、下図の表示で、[プレストーク]スイッチを押すと、セレコール送信元へ応答できます。



(セレコール受信画面表示例)

(次ページにつづく)

セレコール(つづき)

5 [決定]キー(決定)を押す(つづき)

【取消セレコールについて】

自局から送信したセレコールを取り消すときは、手順4(前ページ)で「取消セレコール送信」を選択します。

取消セレコールを送信して、右図が表示され、「ピッピー」と鳴ります。

取消セレコール送信が成功すると【**回線表示**】ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

※取消セレコールを受信した相手局では、「ピッポー」と鳴り、セレコール受信画面を解除して待ち受け画面に戻ります。

※セレコールを受信した相手局がセレコール受信画面を解除(いずれかのキーを押す)していたときは、取消セレコール送信元では「ピー」と鳴り、右図が表示されます。

取消セレコール送信

118号車
呼出中



取消セレコール送信

118号車
成功

取消セレコール送信

118号車
取消対象がありません


【ご参考】

- 個別通話モード、または個別優先通話モードの番号入力発信(P.49)、発信履歴(P.56)、および着信履歴(P.57)からも相手局番号を入力、または相手局を選択後、手順3(P.58)以降の操作をするとセレコール/取消セレコール送信ができます。
- 「ブッブッブ」&鳴り、「発呼禁止」が表示されたときは、セレコール送信が禁止に設定されている場合があります。
あらかじめ販売店での保守設定が必要です。

メールを送信する

あらかじめ登録された定型文をメール送信します。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド]  キー(番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。


局番号帳	数
0 1号車	
0 2号車	
0 3号車	
あ行	選択 改頁

2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]キーを押すと、選択局が替わります。

(選択例: 118号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

※[右ガイド]  キー(改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。

局番号帳	数
1 1 6号車	
1 1 7号車	
1 1 8号車	
あ行	選択 改頁

3 [決定]キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わります。

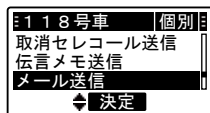
1 1 8号車	個別
発呼	
セレコール送信	
取消セレコール送信	
	決定

(次ページにつづく)

メールを送信する(つづき)

4 「メール送信」を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、「メール送信」を選択します。



5 【決定】キー(決定)を押す

右図の表示に切り替わります。

- 最上段にあらかじめ登録されている定型文(例)が表示されます。



6 登録されている定型文を選択する


【▲】/【▼】キーを押し、登録されている定型文(最大30件)を選択します。
(選択例: 1件目到着)

※定型文が全角10文字より長いときは、はじめの全角10文字が表示されます。





メールを送信する(つづき)

7 選択した定型文を入力する

[右ガイド]  キー(入力)を押します。

●選択した定型文が下段に入力されます。

※[左ガイド]  キー(クリア)を短く押すごとに最後の1文字が消去され、押しつづけると全文が消去されます。

1 件目到着
1 件目到着
クリア  送信 入力

【定型文を追加するには】

再度、手順6(前ページ)→手順7の操作をすると、先に入力した定型文のうしろに新たな定型分が追加/消去できます。

※定型文の組み合わせ最大文字数は全角24文字です。

(次ページにつづく)

メールを送信する(つづき)

8 【決定】キー(送信)を押す

メールを送信して、右図が表示され、「ピッピー」と鳴ります。

メール送信が成功すると【回線表示】ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

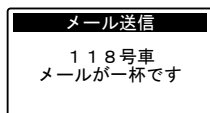
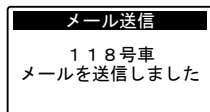
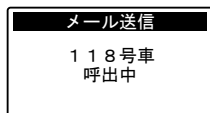
※メールを受信した相手局では、「ピッポー」が3回鳴って、通話画面が表示されたあと、待ち受け画面(下図)に戻り、アイコンエリアに「✉」が表示されます。



(待ち受け画面)

例:全グループ通話)

※相手局のメールBOXがいっぱいで受信できないときは、右図が表示されます。



【ご参考】

個別通話モード、または個別優先通話モードの番号入力発信(P.49)、発信履歴(P.56)、および着信履歴(P.57)からも相手局番号を入力、または相手局を選択後、手順3(P.61)以降の操作をするとメール送信ができます。

受信メール履歴

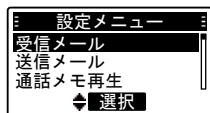
受信したメールの履歴、および内容を確認し、メールの返信ができます。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態ですべてのキー(メニュー)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



※「受信メール」が選択されていない場合は、[▲]/[▼]キーを押して、「受信メール」を選択します。

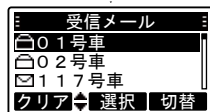


2 [決定]キー(選択)を押す

受信メールに切り替わります。

- 受信メール履歴(最大10件の着信相手局の名称、およびその名称の前にメールが未読メールか既読メールかを示すマーク)が表示されます。

マーク	受信メール履歴の状態
	未読メール
	既読メール



※メールを受信できる最大文字数は全角96文字です。

※文末まで表示(手順4:次ページ)させると、既読メールになります。

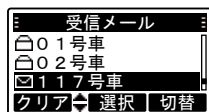
(次ページにつづく)


受信メール履歴(つづき)

3 メール内容を表示させたい相手局を選択する


【▲】/【▼】キーを押し、メール内容を表示させたい相手局を選択します。

(選択例: 117号車)



※【左ガイド】キー(クリア)を押すと、選択している既読メールのみ消去します。

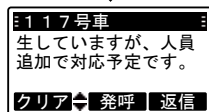
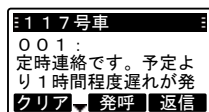
未読メールは消去できません。


※【右ガイド】キー(切替)を押すと、「送信メール履歴」の手順3(次ページ)に切り替わります。

4 【決定】キー(選択)を押す

受信メール履歴の受信内容が表示されます。


- 受信メールの内容につづきがある場合は、【▼】キーを押すと、つづきの内容が表示されます。
- つづきの受信メールの内容を表示中に、【▲】キーを押すと、1つ前の受信メール画面に戻ります。



※【左ガイド】キー(クリア)を押すと、表示されている既読メールのみ消去します。

未読メールは消去できません。

※【決定】キー(発呼)を押すと、メール送信元に発呼します。

※【右ガイド】キー(返信)を押すと、「メールを送信する」の手順5(P.62)に切り替わります。

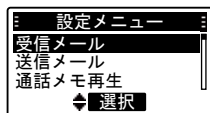
送信メール履歴

送信したメールの履歴、および内容を確認し、メールの再送信ができます。

1 設定メニューを呼び出す

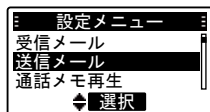
待ち受け画面の状態で**【決定】**キー(XC-
Y-)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「送信メール」を選択する

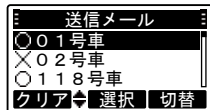
【▲】/**【▼】**キーを押し、「送信メール」を
選択します。



3 **【決定】**キー(選択)を押す

送信メールに切り替わります。

- 最新の送信メール履歴(最大10件の
送信相手局の名称、およびその名称
の前にメールが送信済みか未送信か
を示すマーク)が表示されます。



マーク	送信メール履歴の状態
○	送信済み(送信成功)
×	未送信(送信失敗)

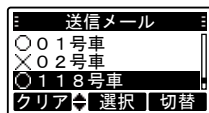
(次ページにつづく)


送信メール履歴(つづき)


4 メール内容を表示させたい相手局を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、メール内容を表示させたい相手局を選択します。

(選択例: 118号車)

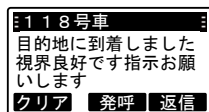



※【左ガイド】キー(クリア)を押すと、選択しているメールを消去します。

※【右ガイド】キー(入力)を押すと、「受信メール履歴」の手順3(P.66)に切り替わります。


5 【決定】キー(選択)を押す

送信メールの内容が表示されます。



※【左ガイド】キー(クリア)を押すと、表示されている送信メールを消去します。


※【決定】キー(発呼)を押すと、メール送信先の相手局に発呼します。

※【右ガイド】キー(再送)を押すと、再度同じメールを送信します。

伝言メモを送信する

相手局の留守録にメッセージを録音します。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド]  キー(番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。


局番号帳	数
0 1号車	
0 2号車	
0 3号車	
あ行	選択 改頁

2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼]/[◀]/[▶] キーを押すと、選択局が替わります。

(選択例: 118号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

※[右ガイド]  キー(改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。

局番号帳	数
1 16号車	
1 17号車	
1 18号車	
あ行	選択 改頁

3 [決定]キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わります。

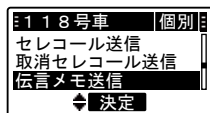
118号車	個別
発呼	
セレコール送信	
取消セレコール送信	
	決定

(次ページにつづく)

伝言メモを送信する(つづき)

4 「伝言メモ送信」を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、「伝言メモ送信」を選択します。



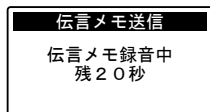
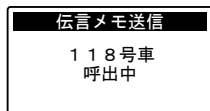
5 「決定」キー(決定)を押す

右図の表示に切り替わり、「ピッピー」と鳴り、発呼します。

接続が成功すると「回線表示」ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。伝言メモ録音中画面に切り替わりますので、3秒以内に【プレストーク】スイッチを押しながらマイクに向かってお話してください。

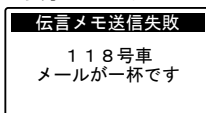
表示の残り秒数、録音できます。

【プレストーク】スイッチをはなすと一定時間後に録音を停止し、待ち受け画面に戻ります。



(伝言メモ録音中画面)

※相手局のメールBOXがいっぱいで受信できないときは、下記が表示されます。



【ご参考】

伝言メモ録音時間は、販売店での保守設定により変更できます。

伝言メモを再生する

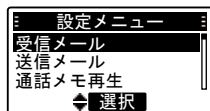
相手局から自局宛に録音された留守録メッセージを再生します。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で**[決定]**キー(メニュー)を押します。

●設定メニュー画面が表示されます。

※「受信メール」が選択されていない場合は、**[▲]**/**[▼]**キーを押して、「受信メール」を選択します。

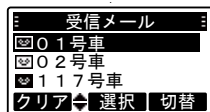


2 [決定]キー(選択)を押す

受信メールに切り替わります。

※伝言メモ履歴(最大6件の着信相手局の名称、およびその名称の前に伝言メモが未確認か確認済みかを示すマーク)が表示されます。

通話メモ録音(P.73)が設定されているときは、伝言メモ履歴の登録は最大5件となります。



マーク	伝言メモ履歴の状態
	未確認伝言メモ
	確認済み伝言メモ

【ご参考】

伝言メモ履歴の登録件数は、販売店での保守設定により変更できます。

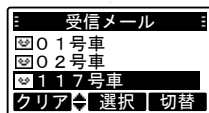
(次ページにつづく)


伝言メモを再生する(つづき)


3 伝言メモを再生する相手局を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、伝言メモを再生する相手局を選択します。

(選択例: 117号車)



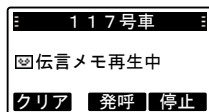
※【左ガイド】キー(クリア)を押すと、選択している確認済み伝言メモのみ消去します。

※【右ガイド】キー(切替)を押すと、「送信メール履歴」の手順3(P.67)に切り替わります。

4 【決定】キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わり、伝言メモが再生されます。

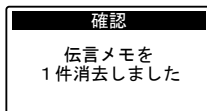
- 再生が終了すると、手順3(上記)の表示に戻ります。




※伝言メモ再生中に【右ガイド】キー(停止)を押すと、再生を停止し、手順3(上記)の表示に戻ります。

※伝言メモ再生中に【決定】キー(発呼)を押すと、再生を停止して伝言メモ送信元に発呼します。

※伝言メモ再生中に【左ガイド】キー(クリア)を押すと、再生を停止して下図の表示に切り替わり、伝言メモを消去します。



通話メモ録音の設定と解除(待ち受け中)

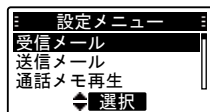
相手局の音声を録音するための設定と解除ができます。
通話メモ設定中は、アイコンエリアに「」が表示されます。

■ 通話メモ録音を設定する(待ち受け中)

1 設定メニューを呼び出す

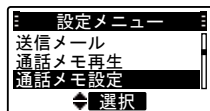
待ち受け画面の状態ですべてのキー(メニュー)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



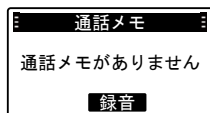
2 「通話メモ設定」を選択する

上/下キーを押し、「通話メモ設定」を選択します。



3 [決定]キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わります。



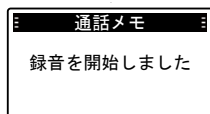
(次ページにつづく)

通話メモ録音の設定と解除(待ち受け中)つづき

4 [決定]キー(録音)を押す

右図が表示され、録音設定が完了すると待ち受け画面に戻ります。

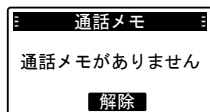
※通話メモ録音があるときは録音を消去して、録音待機状態となります。
通話がはじまると、自動で録音が始まります。



■ 通話メモ録音設定を解除する(待ち受け中)

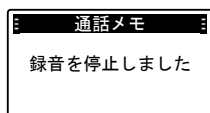
1 [決定]キー(選択)を押す

手順2(前ページ)の状態にしてから、
[決定]キー(選択)を押します。
右図の表示に切り替わります。



2 [決定]キー(解除)を押す

右図が表示され、録音設定が解除されると待ち受け画面に戻ります。



【ご参考】



通話を受信しているときは録音し、無音は録音されません。

通話メモの録音と停止(通話中)

通話中に自局、および相手局の通話音声を録音できます。
通話メモ録音中は、アイコンエリアに「」が表示されます。


■ 通話メモを録音する(通話中)

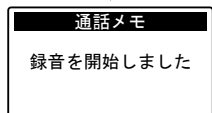
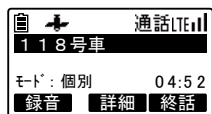
1 通話中に[左ガイド] キー(録音)を押す

通話中(例: 118号車と通話)でアイコンエリアの「」が非表示のとき、[左ガイド]  キー(録音)を押すと、録音を開始します。

- 通話内容は60秒間*、録音できます。
60秒*経過しても録音は停止せず、常に最新の60秒間*を録音しつづけます。

★設定により録音時間が異なります。

※アイコンエリアに「」が表示されているときは録音中です。





(次ページにつづく)


通話メモの録音と停止(通話中)つづき

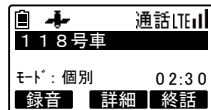
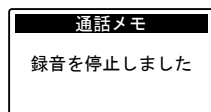
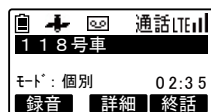
■ 通話メモ録音を停止する(通話中)

1 通話中に[左ガイド] キー(停止)を押す

通話中(例:118号車と通話)でアイコンエリアに「」が表示されているとき、[左ガイド]  キー(停止)を押すと、録音を停止します。

- 録音停止前の約60秒間の録音内容が保持されます。(録音時間60秒設定の場合)

※再度、[左ガイド]  キー(録音)を押すと、録音が再開されます。
このとき、前回の録音内容は消去されます。



【ご参考】

通話メモ録音時間は、販売店で保守設定により変更できます。

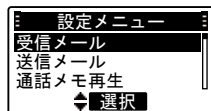
通話メモを再生する

録音した自局、および相手局の通話音声を再生できます。

1 設定メニューを呼び出す

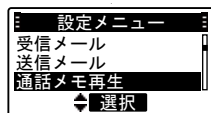
待ち受け画面の状態で**[決定]**キー(メニュー)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「通話メモ再生」を選択する

[▲]/[▼]キーを押し、「通話メモ再生」を選択します。




(次ページにつづく)

通話メモを再生する(つづき)


3 [決定]キー(選択)を押す


録音した音声、約10秒前から再生されます。

※[左ガイド]  キー(巻戻)を1回押しで約20秒前、2回押しで約60秒前、3回押しで約120秒前に、キーを押した再生中の位置から巻き戻して再生されます。

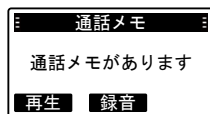
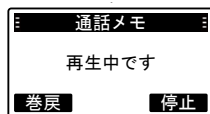
巻き戻した秒数が先頭位置以前になったときは、先頭から再生されます。

また、長押しすると先頭から再生されます。

※[右ガイド]  キー(停止)を押すと、再生を途中で中止して、通話メモ設定画面に切り替わります。

この画面で、[左ガイド]  キー(再生)を押すと、録音した音声が先頭から再生されます。

[決定]キー(録音)の動作は、「 通話メモ録音を設定する(待ち受け中)」の手順4(P.74)と同じ動作になります。



(通話メモ設定画面)

待ち受け画面の状態で【緊急通報】キーを押しつづけると、緊急通報を発呼します。

※この機能を使用するには、運用パラメータで緊急通報を有効に設定してください。

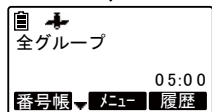
1 【緊急通報】キーを押しつづける

「自」および「+」以外のアイコンが消灯し、緊急通報を発呼します。

【緊急通報を解除するには】

【緊急通報】キーを押しつづけます。

●待ち受け画面に戻ります。



【ご注意】

緊急通報機能は、タクシー強盗など、危険がさし迫っているときに相手(犯人)に気づかれないように指令局等に通報できる機能です。

したがって、ブープ音やランプ点灯などの動作はなく、手順1の表示変化のみになっています。

また、緊急通報中でもGPS位置情報(P.95)の送信や、ファームウェアダウンロード(P.108)は継続します。

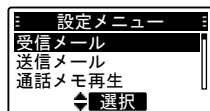
ユーザを切り替える

ユーザが複数ある場合、ユーザを切り替えて通話できます。

1 設定メニューを呼び出す

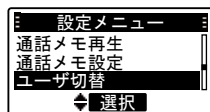
待ち受け画面の状態ですべてのキー(メニュー)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



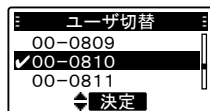
2 「ユーザ切替」を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、「ユーザ切替」を選択します。



3 【決定】キー(選択)を押す

ユーザ切替画面が表示されます。



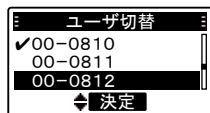
(次ページにつづく)

ユーザを切り替える(つづき)

4 切り替えたいユーザ名(番号)を選択する

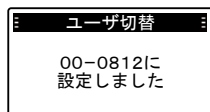
[▲]/[▼]キーを押し、切り替えたいユーザ名(番号)を選択します。

(選択例:00-0812)



5 [決定]キー(決定)を押す

「ピピピ」と鳴り、設定が完了したことを知らせます。



自局情報を確認する

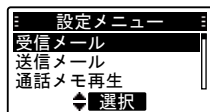
登録されている場合、下記に対する内容が順次表示されます。

自 局 情 報	表 示 内 容
メインユーザ	名称、または番号と自局番号
	所属する着グループ番号
サブユーザ	名称、または番号と自局番号
	所属する着グループ番号
機体番号	個体識別用番号
ソフトバージョン	ソフトウェアのバージョン
運パラバージョン	運用パラメータのバージョン
情報更新履歴番号	移動局情報の履歴番号
管理番号	管理番号

1 設定メニューを呼び出す

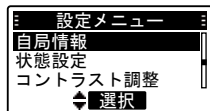
待ち受け画面の状態で、**[決定]**キー（メニュー）を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「自局情報」を選択する

[▲]/[▼]キーを押し、「自局情報」を選択します。



自局情報を確認する(つづき)

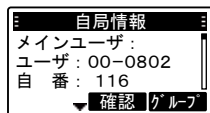
3 [決定]キー(選択)を押す

自局情報画面が表示されます。


(例:メインユーザ)

【ほかの自局情報を確認するには】

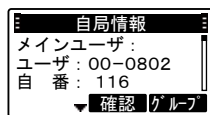
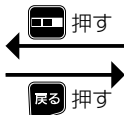
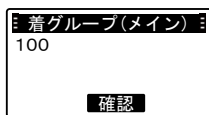
【▼】キーを押します。



【着グループ番号を確認するには】

【右ガイド】キー(グループ)を押します。

※ほかの自局情報をつづけて確認するときは、【戻る】キーを押してから、手順4に進みます。



(確認例:メインユーザの着グループ)

【待ち受け画面に戻すには】

【決定】キー(確認)を押します。

※再度、確認するときは、前ページの
手順1からやりなおしてください。



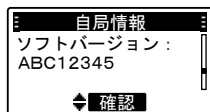
(待ち受け画面

例:全グループ通話)

4 ほかの自局情報を確認する

【▼】キーを繰り返し押します。

※1つ前の情報表示に戻るときは、
【▲】キーを押します。



(例:ソフトバージョン)

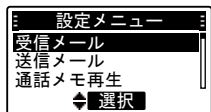
コントラストを調整する

表示の濃淡を調整します。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で、**[決定]**キー(メニュー)を押します。

●設定メニュー画面が表示されます。



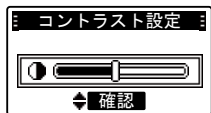
2 「コントラスト調整」を選択する

[▲]/[▼]キーを押し、「コントラスト調整」を選択します。



3 **[決定]**キー(選択)を押す

コントラスト設定画面が表示されます。




4 コントラストを調整する

[▲]/[▼]キーを押します。

◎濃くするときには、**[▲]**キーを押します。

◎薄くするときには、**[▼]**キーを押します。


※調整後は、**[決定]**キー(確認)を押します。

※**[戻る]**  キーを押すと手順2(上記)の画面に戻りますが、調整値は元に戻らず、現在の値で確定します。

ワンタッチ発信相手局を切り替える

ワンタッチ発信相手局、待ち受け着信グループを局番号帳から選択し、切り替えることができます。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド]  キー(番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。


局番号帳	◀数▶
0 1号車	
0 2号車	
0 3号車	
あ行	選択 改頁

2 設定する名称を選択する

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]キーを押すと、選択局が替わります。

(選択例: 118号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

※[右ガイド]  キー(改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。

局番号帳	◀数▶
1 1 6号車	
1 1 7号車	
1 1 8号車	
あ行	選択 改頁

3 [決定]キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わります。

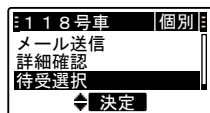
1 1 8号車	個別
発呼	
セレコール送信	
取消セレコール送信	
決定	

(次ページにつづく)

ワンタッチ発信相手局を切り替える(つづき)

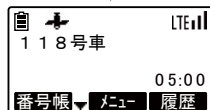
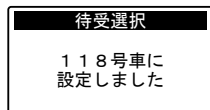
4 「待受選択」を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、「待受選択」を選択します。



5 「決定」キー(決定)を押す

「ピピピ」と鳴り、待ち受け画面に戻ります。
待ち受ける局番号が選択した相手に替わります。(選択例: 118号車)



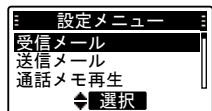
状態を設定する

下記の操作で設定した自局の状態を動態管理システムに通知できます。

1 設定メニューを呼び出す

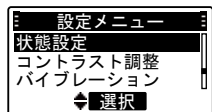
待ち受け画面の状態では、**[決定]**キー(メニュー)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「状態設定」を選択する

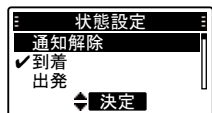
[▲]/[▼]キーを押し、「状態設定」を選択します。



3 [決定]キー(選択)を押す

状態設定画面*が表示されます。

- ★右の表示例は、初期設定の場合で、販売店での保守設定により異なることがあります。

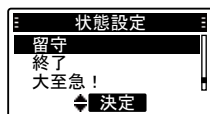


(次ページにつづく)

状態を設定する(つづき)

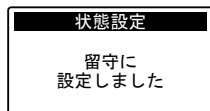
4 通知する状態を選択する

【▲】/【▼】キーを押し、通知させたい情報を選択します。(選択例:留守)



5 【決定】キー(決定)を押す

「ピピピ」と鳴り、設定が完了したことを知らせます。

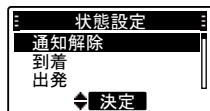


◆状態の設定を解除するには

1 「状態設定」を選択し、【決定】キー(決定)を押す

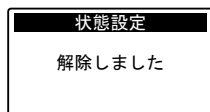
状態設定画面表示(前ページの手順3)にします。

- 「通知解除」が選択されています。



2 【決定】キー(決定)を押す

「ピピピ」と鳴り、設定が完了したことを知らせます。



バイブレーションをONにする

着信をバイブレーション(振動)でお知らせする設定です。

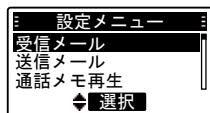
※このメニューは、運用パラメータ(P.116)で機能を有効に設定した場合に表示されます。

※設定が有効なモードは「通話する(着信)」(P.53)をご覧ください。

1 設定メニューを呼び出す

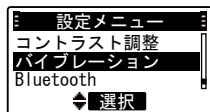
待ち受け画面の状態で、**【決定】**キー(XC1)を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「バイブレーション」を選択する

【▲】/【▼】キーを押して、「バイブレーション」を選択します。



3 「決定」キー(選択)を押す

バイブレーション画面が表示されます。



4 「ON」を選択する


【▲】/【▼】キーを押して、「ON」を選択します。

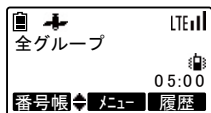


(次ページにつづく)

バイブレーションをONする(つづき)

4 [決定]キー(決定)を押す

バイブレーションを有効にして待ち受け画面に戻り、画面右端に「」表示が点灯します。



◆バイブレーションをOFFにするには

1 「バイブレーション」を選択し、[決定]キー(決定)を押す

バイブレーション画面表示(前ページの手順3)にします。

●「ON」が選択されています。




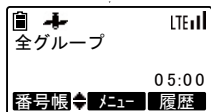
2 「OFF」を選択する

[▲]/[▼]キーを押して、「OFF」を選択します。



3 [決定]キー(決定)を押す

バイブレーションを無効にして待ち受け画面に戻り、画面右端の「」表示が消灯します。



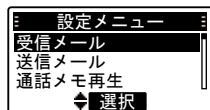
Bluetooth®を設定する

Bluetooth®機器の探索、接続、確認を行います。

1 設定メニューを呼び出す

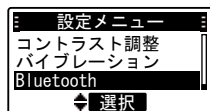
待ち受け画面の状態で、**[決定]**キー(メニュー)を押します。

●設定メニュー画面が表示されます。



2 「Bluetooth」を選択する

[▲]/[▼]キーを押して、「Bluetooth」を選択します。



3 「決定」キー(選択)を押す

Bluetooth画面が表示されます。

【機器の探索をするには】

探索する機器の種類を選択します。

(選択例: 機器探索 (イヤホンマイク))

手順4(次ページ)へ進みます。



※「機器探索 (イヤホンマイク)」が選択されていない場合は、**[▲]/[▼]**キーを押し、「機器探索 (イヤホンマイク)」を選択します。

【接続機器の確認をするには】

手順7(P.93)へ進みます。


(次ページにつづく)

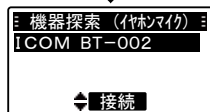
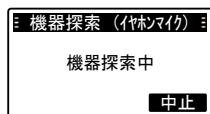
Bluetooth®を設定する(つづき)

4 「決定」キー(選択)を押す

右図の表示に切り替わり、機器の探索を行います。

機器が見つかり、一覧が表示されます。

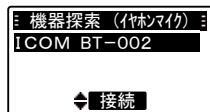
※機器探索中に、[右ガイド]  キー(中止)を押すと、機器探索を中止します。



5 接続する機器を選択する

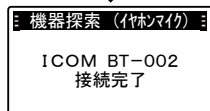
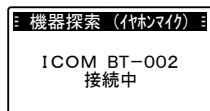
[▲]/[▼]キーを押して、接続する機器を選択します。

(選択例: ICOM BT-002)



6 「決定」キー(接続)を押す

機器の接続(ペアリング)を開始し、接続が完了すると、手順3(前ページ)に戻ります。



Bluetooth®を設定する(つづき)

7 「接続機器一覧」を選択する


【▲】/【▼】キーを押し、「接続機器一覧」を選択します。

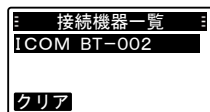


8 「決定」キー(選択)を押す


右図の表示に切り替わります。

【▲】/【▼】キーを押して、接続している機器(最大8件)を確認できます。

※【左ガイド】キー(クリア)を押すと、選択している接続機器(切断済み)を削除して、手順7(上記)の表示に戻ります。

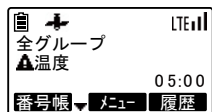


【同一接続機器が複数表示されたときは】

【左ガイド】キー(クリア)を押して、同一接続機器をすべて削除し、手順3(P.91)から再度、設定をお願いします。

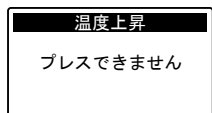
警告機能について

本製品の温度が規定温度を超えると、温度警告「**▲温度**」が表示されて温度上昇警告音（「**ピー**」が1回）が鳴ります。その後、送受信はできなくなります。



また、送信中に規定温度を超えた場合は、警告画面が表示されて送信を中断します。

本製品の温度が規定温度を下回ると、温度警告は消灯して送受信できるようになります。



（警告画面）

※「**▲温度**」が表示された場合は、本製品の電源を切ってください。

また、「**▲温度**」表示が消灯すると送受信できるようになりますが、本製品がある程度冷えてから、再運用されることをおすすめします。

その他の機能について

■ GPS位置情報

内蔵されているGPSユニットから取得した位置情報を定期的に発呼します。

また、**【プレストーク】**スイッチを押したときにも発呼します。

設定によっては、発呼する位置情報を強制的に非測位にします。

※GPSは人工衛星からの電波を利用しているため、無線機本体上部のGPSアンテナを空に向けると測位しやすくなります。

■ 無通信時間制限

「通話状態」のとき、送受しない時間を制限します。

無通信時間制限は、電源を入れたときにサーバーから通知されます。

「送信状態」、および「話中状態」から「通話状態」に切り替わったときにカウントダウンを開始します。

制限時間になった場合、「ブー」と終話音が鳴るとともに、サーバーからの切断通知によって待ち受け画面に戻ります。

■ 緊急モニター

緊急モニター要求を受信すると、**【プレストーク】**スイッチの操作に関係なく、マイクから入った周囲の音が送信されます。

また、別売品のスピーカーマイク/イヤホンマイク/Bluetooth®イヤホンマイクを接続している場合に、これらの**【PTT】**(送信)スイッチを押しているあいだは、別売品のマイクが本製品のマイクと同時に有効となり、こちらから入った周囲の音も送信されます。

緊急モニター要求を受信した場合は、待ち受け画面のまま「発呼」→「送信」します。

緊急モニター停止要求まで、緊急モニター状態を継続します。

別売品とその使いかた

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品について

★1：IP57の防塵/防水性能があります。

★2：IPX7の防水性能があります。

★3：IPX4の防水性能があります。

★4：補修用部品としてお買い求めいただけます。

上記、防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.6)をご覧ください。

バッテリー関連

SK-P01*¹ :Li-ionバッテリーパック
(2200mAh min./2350mAh typ.)
※本書P.28と併せてご覧ください。

SK-P06*³ :乾電池ケース(単3形アルカリ乾電池×3本)
※本書P.98～P.99と併せてご覧ください。

充電器関連

SK-P02 :急速充電器
※本書P.29～P.30と併せてご覧ください。
※電源には、別売品のSK-P03が必要です。

SK-P03 :ACアダプタ(SK-P02用の電源)
※本書P.29～P.30と併せてご覧ください。

SK-P04 :6連急速充電器(ACアダプタ:SK-P05付属)
※本書P.100～P.101と併せてご覧ください。

SK-P05*⁴ :ACアダプタ(SK-P04用の電源)
※本書P.100～P.101と併せてご覧ください。

SK-P07 :車載用シガライターケーブル
※本書P.106と併せてご覧ください。

別売品とその使いかた(つづき)

アンテナ

- SK-A01^{*1}** : アンテナ(長さ:約6cm)
※本書P.27と併せてご覧ください。

マイク関連

- SK-M01** : スピーカーマイク
※本書P.102と併せてご覧ください。
- SK-M02** : ネクタイピンマイク(イヤホン付属)
※本書P.102と併せてご覧ください。
- イヤホン^{*4}** : SK-M02の付属品
※本書P.102と併せてご覧ください。
- SK-M03** : Bluetooth[®] イヤホンマイク
※接続/使いかたについては本書P.89～P.93、および
SK-M03付属の取扱説明書をご覧ください。
- SK-M04^{*2}** : 防水スピーカーマイク
※本書P.102と併せてご覧ください。

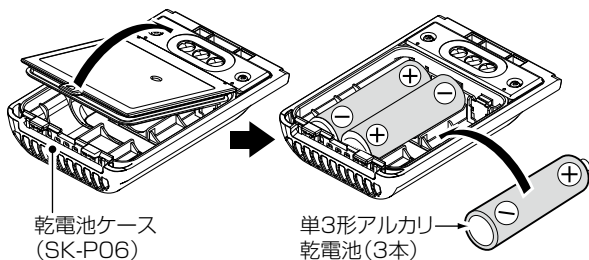
その他

- SK-T01** : ベルトクリップ
※本書P.27と併せてご覧ください。
- SK-T02** : ソフトケース
※本書P.104と併せてご覧ください。
- BLUE HANDY STRAP**
: ストラップ(長さ:約185mm)
※本書P.27と併せてご覧ください。

別売品とその使いかた(つづき)

■ 乾電池ケース(SK-P06)について

乾電池ケースのフタを開け、単3形アルカリ乾電池(3本)を入れます。



※ 本製品に装着するときの注意点などは、「■ バッテリーパックの取り付けかた」(P.28)をご覧ください。

【ご参考】

乾電池ケース(SK-P06)を、本製品に装着したときは、IPX4の防水性能になります。

【乾電池ケースを正しくご使用いただくために】

△危険

乾電池ケース(SK-P06)は、単3形アルカリ乾電池専用です。マンガン乾電池や充電式電池は使用しないでください。破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

別売品とその使いかた(つづき)

△注意

乾電池ケースを使用しないときは、乾電池ケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

乾電池ケースは昇圧回路を内蔵しています。

そのため、乾電池ケースを使用していないときも微少な電流が流れるため、アルカリ乾電池が消耗する原因になることがあります。


- ◎ 単3形アルカリ乾電池の極性(⊕ (プラス側) と ⊖ (マイナス側))を間違えないように入れてください。
- ◎ 乾電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いたやわらかい布などで、電池端子部を定期的にふいてください。
- ◎ アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

【乾電池の交換時期について】

乾電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると、電源が切れたり、再起動を繰り返したりします。

このようなときは、3本とも新しい電池に交換してください。

※ 乾電池ケースを装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池は運用に応じて消耗しますが、残量に関わらず、電池の残量表示は「」になりますのでご注意ください。

別売品とその使いかた(つづき)

■ 6連急速充電器(SK-P04)で充電するには

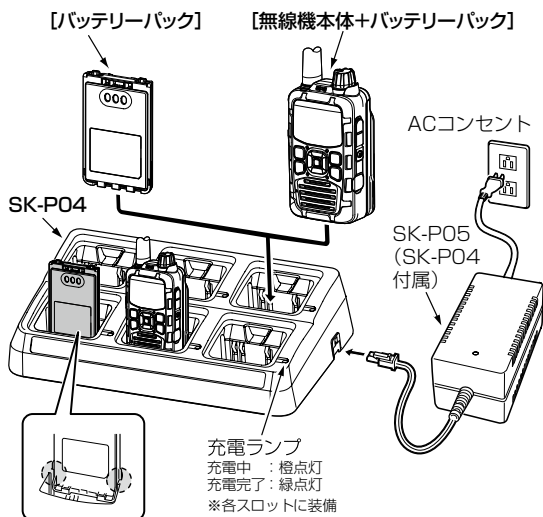
お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。

- ◎ 充電中は、本製品の電源を切ることをおすすめします。
電源が入ったまま充電すると、充電に時間がかかります。
- ◎ バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。
- ◎ 充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。
※橙色で点滅する場合は、「故障と思われる前に」(P.114)をご覧ください。
※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプタを抜いてください。
- ◎ 本製品を長時間ご使用にならない場合は、充電器から取りはずしてください。

⚠危険

- ◎ 指定(SK-P01)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎ 「安全上のご注意」(P.16～P.26)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

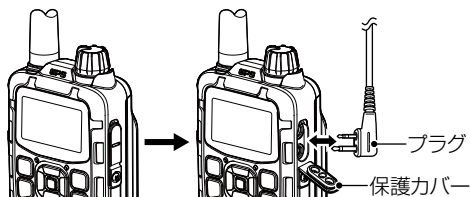
別売品とその使いかた(つづき)



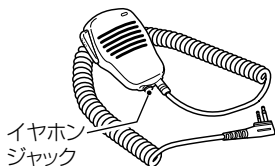
別売品とその使いかた(つづき)

■ スピーカーマイク(SK-M01)/ネクタイピンマイク(SK-M02)/防水スピーカーマイク(SK-M04)の接続について

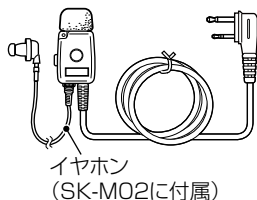
- ◎ 接続ケーブルを抜き差しする前に、本製品の電源を切ってください。
- ◎ プラグ本体を持ってまっすぐに抜き差ししてください。
- ◎ 防塵/防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、プラグを接続するときは、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ 防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを閉じた状態でご使用ください。



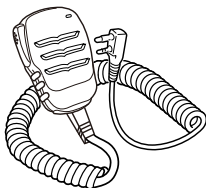
SK-M01



SK-M02



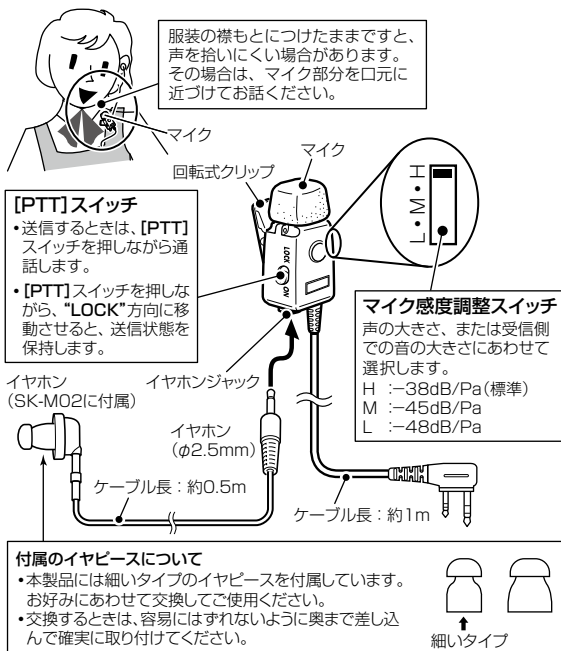
SK-M04



※SK-M02に付属のイヤホンを無線機本体に直接接続して使用できません。

別売品とその使いかた(つづき)

■ ネクタイピンマイク(SK-M02)の使いかた



【ご参考】

マイクの切り替えは、SK-3000の【プレストーク】スイッチが押された場合は、SK-3000のマイクが有効になります。

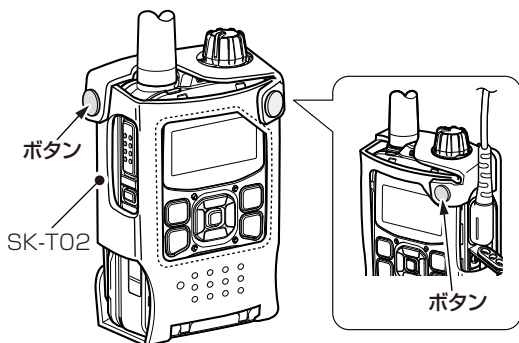
ネクタイピンマイク(SK-M02)の【PTT】スイッチが押された場合は、ネクタイピンマイクが有効になります。

ネクタイピンマイクがSK-3000に接続されていても、SK-3000の【プレストーク】スイッチが押された場合は、SK-3000のマイクが有効になります。

別売品とその使いかた(つづき)

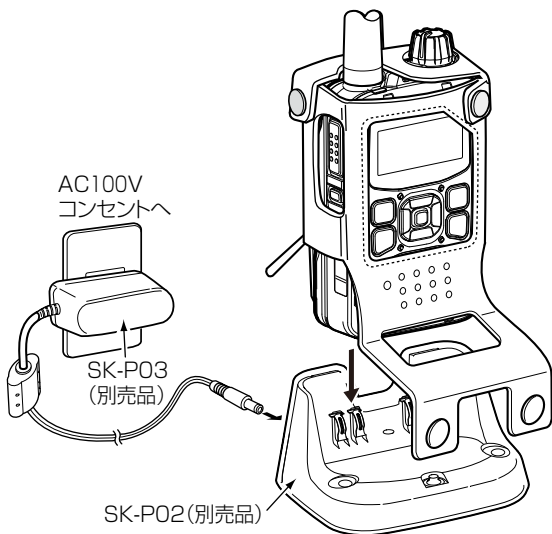
■ ソフトケース(SK-T02)について

無線機本体にバッテリーパック(SK-P01)を装着しているときに使用できるソフトケースです。



別売品とその使いかた(つづき)

ソフトケースを装着した状態で充電するときは、ソフトケースの背面にあるボタンをはずし、下図のように挿入してください。




△注意

ソフトケースの背面にあるボタンをはずした状態でソフトケース(SK-P02)に挿入するため、ソフトケースの下部が本体を押し上げる力がはたらき、奥まで確実に挿入しないと、充電端子が非接触となり充電できない場合があります。

別売品とその使いかた(つづき)

■ シガライターケーブル(SK-P07)で充電するには
お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、
必ず充電してからご使用ください。

◎ 無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、シガライターケーブルを接続してください。

※充電中の電池残量表示は「」となります。

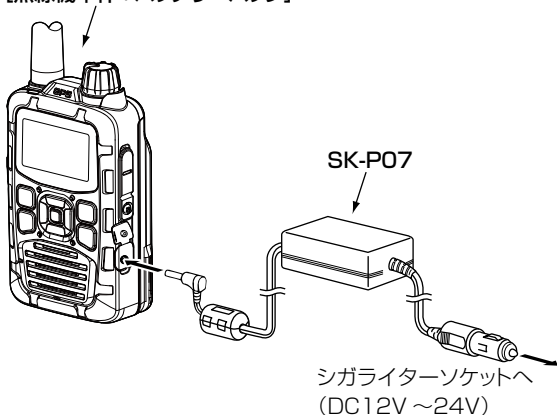
※充電が完了すると、電池残量表示は「」に変わります。

※シガライターケーブルはバッテリーパック充電用のケーブルです。

無線機本体にバッテリーパックを装着せずに接続しないでください。

※充電後や充電しないときは、シガライターソケットからシガライターケーブルを抜いてください。

[無線機本体+バッテリーパック]



ケタ数/件数一覧

設定項目	登録範囲(最大)	登録件数(最大)
移動局番号(個別番号)	4ケタ(1～9999)	—
着グループ番号	3ケタ(1～999)	—
相手局名称 よみがな	全角5文字 かな、英数字4文字	500件
再発信可能な履歴		発信履歴10件 着信履歴10件
メール定型文	全角12文字	30件
受信メール履歴	全角96文字	10件
送信メール履歴	全角24文字	10件
伝言メモ		6件(通話メモ設定時は5件)
Bluetooth [®] 機器		8件
ユーザ名称	全角5文字	24件
状態通知内容	全角5文字	20件

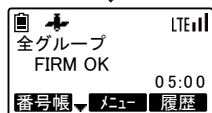
※各種登録範囲、登録件数は販売店の保守設定により異なります。

ファームアップについて

ファームエアダウンロード中(クラウド(サーバー)上に保存されている本製品の最新のソフトウェアが更新されたとき)は、「FIRM DL」が表示されます。



ファームエアダウンロードが完了すると、「FIRM OK」が表示されます。



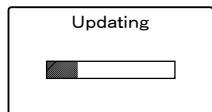
※ファームエアダウンロード中に電源を切った場合は、次回起動時に最初からファームエアダウンロードを再開します。

※ファームエアダウンロード中に異常を検出したときは、「FIRM ER」が表示されます。

「FIRM ER」が表示されたときは、販売店にお問い合わせください。



最新のソフトウェアを有効にするには、電源を入れなおしてください。自動でソフトウェアのアップデートが始まり、完了後に本製品が起動します。




※アップデート中に電源を切った場合は、次回起動時に最初からアップデートを再開します。

メッセージ一覧

本製品で表示されるおもなメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ内容	説明
設定取得中	運用パラメータ、および ユーザ名(番号)変更等の設定取得時
通話エリア圏外	NTT ドコモ回線に未接続
○○○○○ 呼出あり	セレコール受信時
○○○○○ 呼出中	相手局表示時、セレコール、取消セレコール、 メール、伝言メモ送信時
呼出中	相手局無表示時 (「通話モードと相手局の番号を直接入力する」 でグループ、全グループ、全グループ一斉を 発呼したとき)
発呼失敗 相手局圏外	個別発呼の相手局圏外
発呼失敗 相手局話中	個別発呼の相手局話中
発呼失敗 通信中	個別発呼の相手局通信中
発呼失敗	その他の発呼失敗時
○○○○○ 成功	セレコール、取消セレコール送信成功時

メッセージ一覧(つづき)

メッセージ内容	説明
○○○○○ 取消対象がありません	取消セレコール送信失敗時
履歴がありません	発信、着信、受信メール、送信メールで履歴なし
○○履歴を 消去しました	発信/着信履歴全消去
○○○○○ メールを送信しました	メール送信成功時
○○○○○ メールが一杯です	メール、伝言メモ送信失敗時
伝言メモ録音中 残○○秒	伝言メモ送信中、伝言メモ受信中
受信メールを 1件消去しました	受信メール消去
送信メールを 1件消去しました	送信メール消去
伝言メモ 1件消去しました	伝言メモ消去
未確認メールのため 消去できません	メール、伝言メモ未確認消去時
 伝言メモ再生中	伝言メモ再生中

メッセージ一覧表(つづき)

メッセージ内容	説明
録音を開始しました	通話メモ録音開始時
録音を停止しました	通話メモ録音停止時
通話メモがあります	通話メモ録音あり
通話メモがありません	通話メモ録音なし
再生中です	通話メモ再生中
〇〇〇〇〇〇に 設定しました	状態設定時、ユーザ切替時
解除しました	状態解除時
設定を戻しました	待ち受け画面で  キー長押し時

保守

■ 日常の保守

◎ 3G/LTE用micro SIMカードの端子に汚れや傷がなく、本製品のmicro SIMカードスロットに確実に装着されていることを確認してください。

また、micro SIMカードスロットのカバーが正しく閉じられていることを確認してください。

◎ 携帯電話通信サービスエリア内で、通話に支障がないか注意してください。

◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。

ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。

ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

また、バッテリーパック(SK-P01)や乾電池ケース(SK-P06)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。

また、バッテリーパックや乾電池ケースがしっかりと装着されているか点検してください。

◎ 無線機本体、充電器、バッテリーパックの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。

各端子は、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 毎日、決まった位置の相手と通話して、変化がないか確認してください。

■ 定期保守

年1回は、サービス担当会社で定期点検を受けるようにしてください。

故障と思われる前に

修理を依頼される前に、もう一度次のことを確認してください。
それでもなお異常がある場合には、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは	ここをお確かめください
電源が入らない	バッテリーパック、または乾電池ケースの端子が汚れている、あるいは糸クズなどが付着していませんか？
	バッテリーパック、または乾電池ケースの乾電池が消耗していませんか？
	乾電池ケースに入れた乾電池の極性を間違えていませんか？
	電源を切る前、「▲ 温度」と表示されていませんか？
圏内にならない	今いる場所はサービス圏内ですか？ (サービス圏内であってもトンネル内やビルの谷間などでつながりにくいことがあります)
音が聞こえない	本製品の音量を最小にしていますか？ ※キー操作や着信時の音も聞こえなくなります。
受信音声小さい	発信側で、マイクから口を遠くはなして使用していませんか？
受信音声割れる、またはひずむ	発信側で、マイクに口を近づけすぎて使用していませんか？
音が途切れる	電波が弱い地域や移動しているときは、音が途切れることがあります。

故障と思われる前に(つづき)

こんなときは	ここをお確かめください
充電中に、充電器のランプが橙色に点滅する	バッテリーパックは正しく装着されていますか？
	【SK-P02の場合】 0℃～40℃以外の環境で充電していませんか？
	【SK-P04の場合】 10℃～40℃以外の環境で充電していませんか？
	充電端子が汚れている、あるいは糸クズなどが付着していませんか？

【すぐに販売店に】

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店にご相談ください。

用語・機能説明一覧

無線機・無線局

移動局	移動中、または特定しない地点に停止中に運用する無線局
指令局	営業所などの固定された場所で運用し、通話の管理を行う無線局

通話モード

個別通話	1 対 1 の通話
グループ通話	全体を特定の小グループに分けて行う通話
全グループ通話	同一ユーザーの無線局が通話
全グループ斉通話	同一ユーザー内のすべての通話を終了し、送信者が優先通話を行う全グループ通話
個別優先通話	同一ユーザー内で、通話中の無線局に対して、通話を強制終了させて、その無線局と優先して通話を行う個別通話
隣接通信通話	同一ユーザー内で、GPS位置情報、またはあらかじめ無線機に設定されている位置情報を元に、指定位置から指定範囲内にある無線局が通話

ユーザ

ユーザ	同一のユーザ名(番号)を持つユーザー
ユーザ切替	自局が所属しているユーザ名(番号)の切り替え

グループ

グループ	ユーザー内をいくつかに分けた小団体
着グループ番号	自局が所属するグループの番号

用語・機能説明一覧(つづき)

その他

個別番号	無線機ごとに割り当てられた特定の番号
セレコール	呼び出しがあったことを着信音(ピッポー)と表示で通知する機能
通話メモ	通話の途中で残しておきたい内容を録音し、必要に応じて再生する機能
伝言メモ	相手局の留守録にメッセージを録音する機能
選択呼出	特定の相手局のみを呼び出し、呼び出された相手局では着信音が鳴る機能
メール	通信ネットワークを介してコンピューターなどの機器の間で文字を中心とするメッセージを送受信するシステムで、本製品では、あらかじめ登録された定型文を無線機間で送受信する機能
Bluetooth	デジタル機器用の近距離無線通信規格の一種で、本製品では指定のBluetooth [®] イヤホンマイク(SK-M03)をワイヤレスで接続して運用する
バイブレーション	着信時に、無線機を振動させて知らせる機能
GPS	グローバルポジショニングシステムの略で、人工衛星を利用して自分が地球上のどこにいるのかを正確に割り出すシステム
運用パラメータ	運用するためのクラウド(サーバー)から送られる無線機の動作を設定する値
ソフトウェア	コンピューターシステム上で何らかの処理を行うプログラム

用語・機能説明一覧(つづき)

その他

ファーム(FIRM) 電子機器に組み込まれたコンピューターシステムを制御するためのソフトウェア

ファームウェアダウンロード(FIRM DL) 無線通信技術を利用したファーム更新システム

仕様

■ SK-3000

外形寸法	58(W)×95(H)×31.8(D)mm (突起物を除く、SK-P01装着時)
質量	約132g(本体のみ) 約250g(SK-A01とSK-P01を含む)
動作温度	-10℃～+60℃
電源電圧	定格(バッテリー端子) : 7.2V(SK-P01) 5.5V(SK-P06) 外部端子 : 11.0V(SK-P07)
消費電流	700mA以下
音声入力レベル	9mVrms -39dBm±3dB @600Ω
スピーカー定格出力	250mW以上(内部SP 8Ω 10%歪時) 125mW以上(外部SP 8Ω 10%歪時)

保証とアフターサービス

■ 保証書(別添付)

- ◎ 必ず、お買い上げの販売店からお買い上げの日、販売店名などの記入をお確かめの上、よくお読みのあと、保存してください。

保証期間はお買い上げの日から1年間です。

- ◎ 異常にお気づきのときは、「故障と思われる前に」(P.113)の表にしたがってご確認のあと、直らないときは、必ず電源を切ってからお買い上げの販売店にご連絡ください。

■ 保証期間中の修理

- ◎ お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証書の規定にしたがって修理させていただきます。

■ 保証期間後の修理

- ◎ お買い上げの販売店にご相談ください。

■ 弊社製品のお問い合わせ先について

- ◎ お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記サポートセンターにお問い合わせください。

販売元お問い合わせ先

スマートウェーブ・テレコミュニケーションズ株式会社
サポートセンター

TEL 045-718-6750

ホームページ <http://smartw.co.jp/>

販売元お問い合わせ先

〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1244番地

スマートウェーブ・テレコミュニケーションズ株式会社
サポートセンター TEL 045-718-6750

- 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店
またはスマートウェーブ・テレコミュニケーションズ株式会社にご相談ください。

お買い上げ日	年	月	日	品番	SK-3000
販売店名	電話 () —				

S7352D-1J-4

Printed in Japan

© 2017-2018 Icom Inc.

製造元 アイコム株式会社